

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103956		
法人名	社会福祉法人 日生会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 バニラハウス		
所在地	熊本市東区小山6丁目10-13		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/51070.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木のぬくもりのある建物と広い芝生の庭を整え、散歩や日光浴を行い、隣接する同事業所の保育園児の賑やかな声と可愛らしい姿に癒され穏やかに過ごして頂ける環境作りを行っています。感染面へも配慮しながら近所へ外食、コンビニへ買い物、地域のお祭りへも参加したりと少しずつ地域活動の場も増やしています。コロナ禍であっても面会制限は早い段階で緩和するなど入居者様とご家族の時間も絶やさぬようになっています。協力医も隣接している環境にあり、連携を取りながら入居者様の健康管理に努めています。食事は、ホール横の台所で管理栄養士の献立をもとに、個別に応じて職員が全て手作りしています。「トントン」と包丁の音やご飯を作る美味しそうな香りが漂います。居室は完全個室、ご家族とゆっくりとした共有時間を過ごして頂けます。日常の様子をご家族の方へも知って頂けるようブログ、インスタ更新、毎月の広報誌、個別写真発送しています。定期的、運営推進会議、家族会を開催し地域・ご家族の方々からのご意見を活動に反映出来るように取り組んでいます。日生会理念である「共生、共学、共有」を掲げ職員一丸となり、温かみのあるケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム近隣にはパークドームをはじめ免許センターなど県民に馴染みの施設があり、国体道路沿いの飲食店の活用や地域で継承されている祭りへの参加、花見物や法人への馬追見学など、コロナ感染症5類移行後は特に外出の機会が多くなっている。新たな管理者は前回の外部評価を受けて全職員で共有を図り改善点に積極的に取り組んでおり、真摯な姿勢が当日の聞き取りや書類からも窺えた。地域代表者とは挨拶や相談事に直接訪問することで信頼関係を築き、協力関係が大きく前進している。感染症により隣接する保育園との直接の交流は控えていた時期も、園児の声は常にホームに伝わっており、少しずつ交流も再開されている。安全に改装されたウッドデッキも園児との触れ合いに一役を担ってくれると思われる。また、隣接する協力医や地域の歯科医の存在は、入居者家族のみならず職員にとっても安心するところとなっている。地域の支えを受けながら今後も前進されることを期待したい。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修・毎月の職員会議で理念について共有を図り、入居者様のサービスに取り組むように実践している。	法人理念をもとに地域共生の道を歩んでいるところであり、地域や事業所内に関わらず「支える側」「支えてもらう側」といった関係性ではなく、入居者が外に出て人々と交流する機会を作るよう努力している。特にこの一年は3か月ごとの家族会の開催や、広報誌「バニラ通信」の発行により、家族との連携がより綿密になっている。現在本年の反省を踏まえ新年度に向けたホームの事業計画に取り組んでいるところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	徐々にではあるが活動できている。地区のお祭りへの参加や町内会議へ参加し災害対策などについて話し合い、地域の方々へも避難訓練に参加して頂いている。協力医であるよしむた総合診療所でも毎日状態報告相談、ご近所のコンビニへ買い物、定食屋さんへも外出している。	中庭を共有する法人保育園児との交流は、入居者の生活に笑顔をもたらし、敬老会や近隣の散歩、火災訓練など様々な行事を共有している。管理者は地域代表者のもとに出向き、ホームの現状を伝えながら、行事や祭りなどの情報を得たり、季節の花を差し入れてもらう等良好な関係を築いている。地元神社の祭りに参加した際には、入居者の誘導を手伝ってもらえる等の協力が得られており、子供相撲に大いに喜ばれたようである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議へ地域の方々にも参加をして頂き、施設の情報を発信している。施設内を見学して頂き入居者様、職員と直接接して頂いている。ご近所への散歩へも出かけ地域の方々との交流する機会も設けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回地域運営推進会議を開催している。地域活動での困りごとなども相談し自治会長や民生委員の方々を中心となって改善対応して頂いている。委員の皆様から頂いた提案も積極的に取り入れている。	運営推進会議は2か月ごとに地域の公民館や隣接する保育園会議室で開催しており、直近の会議では参加者にホーム内に入ってもらうように工夫している。包括職員、高齢者や障害者施設の関係者、地域や家族の代表など多方面からの参加があり、協力医(内科や歯科)には事前に質問や意見に応じてもらう等、会議を有効に進め、運営に反映させている。	保育園児との合同火災訓練には、消防署からの参加、指導を受けており、今後推進会議中で訓練を実施することで地域の危機管理にも繋がるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方との交流を図っている。地域運営推進会議などでご意見を頂き意見交換をしている。	包括センターとは普段から連携を取っており、運営推進会議への参加によりホームの現状を発信し、意見をもらうようにしている。アクシデントについては運営推進会議で詳細に報告しているが、報告書をファックスにて行政に提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や玄関の鍵は開放し、自由に行動出来る環境を提供している。法人全体としてラウンドチェックを定期的の実施している。	身体拘束、虐待については法人の委員会に参加し、ホームでの勉強会で職員の意識向上を図り、指針に基づくケアを実践している。人感センサーの導入には事前の検討会を経て、家族の了解のもと使用し、毎月の評価で必要なしと判断した場合には再び家族に説明して撤去するなど運営推進会議の中でも報告している。法人全体でラウンドチェックに取り組み抜き打ちで他事業所を訪問して全体のケアの質の向上を目指している。	身体拘束を行わないケアをホームの方針としており、玄関などへの指針の掲示により来訪者への啓発とされることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、施設内研修で身体拘束2回/年実施 職員身体拘束、虐待についてのアンケート実施し認識確認をしている。毎月、委員会で拘束虐待がないか話し合い、センサー使用を含め家族意向踏まえ検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修やオンライン研修で制度の理解を深め、ご家族から相談があった際は説明や情報提供が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事柄は、すべて説明し、同意を得て行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置している。面会時、電話でも苦情相談を受け付けている。3か月に1度の家族会開催時にはご家族お一人お一人からご意見を頂いき、その場で返答出来ない際は速やかに職員間で話し合い返答している。その内容は運営推進会議で公表している。	昨年より3か月ごとに開催している家族会には毎回多数の参加者があり、顔を合わせて直接意見を聞く機会としてホーム運営に反映されている。家族会での意見や苦情は運営推進会議で報告して透明性を図り、ホームの姿勢を明らかにしている。入居者の要望はその都度確認し、記録に残したうえで検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・夜勤者会議、朝、夕のミーティングで職員同士の意見交換を行い、提案を施設運営等に取り入れ反映を行っている。	研修や職員会議、申し送りなどで入居者の現状を共有して、ケアの統一を図っている。日勤者と夜勤専従者を配置するホームでは、夜勤専従の職員だけの会議を開き、全体会議で検討し、互いの意見を尊重しながら、ケアにずれが生じないように十分配慮している。玄関には職員の顔写真を貼り、家族や来訪者に紹介している。希望休や有休取得に応じ、普段から意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法を順守しながら行っている。資格取得の啓発や情報の提供を行いながら、スキルアップ出来る環境を作るように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修(オンライン含む)を積極的に活用し、職員スキルアップに必要な情報提供や環境を作るように心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍延長でサロン等参加出来ていない状況である。地域包括支援センター、自治会長、民生委員の方々より情報教えて頂き、他施設、居宅ケアマネ同士情報共有しながら入退去対応している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	繰り返し説明、傾聴行いゆっくりと時間をかけ個別対応しながら職員の顔を覚えて頂くようにしている。ご家族からも情報提供お願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話の時間を多く持ち、共に入居者様の生活について話し合っている。こまめに状態報告している。電話、メール、SNS活用		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神面、身体面、環境面を観察し、協力医や家族と相談しながら必要な支援を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で一緒に行える事を見つけ、教えて頂いたり、昔の話を聞きながら個別に対応し、同じリズムで楽しく生活が出来るように支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の状態を密に伝え、細かな情報や変化も共有しながら本人を支えていけるように話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援を行い、面会の少ない入居者様のご家族へは電話での状態説明や毎月写真や広報誌を発送し面会依頼や外出の依頼をしている。	長い間直接面会が出来なかったことで、現在は居室で入居者とのひと時を過ごしてもらうようにしている。法事への参加や受診の帰りに自宅に立ち寄るなど、入居者にとって馴染みの人々との再会や、帰省が楽しみとなっている。職員や入居者同士の関わりも馴染みのものであり、十五夜の手作り団子や干し柿づくりなど慣れ親しんだ手作業もこれまでの経験が活かされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話に参加したり、場所の提供や共通の物を見つけ取り組めるように支援している。合わない入居者様同士は対面にならないように席配置しながらトラブル回避している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等は病院に連絡を行い、状態把握に努め、ご家族の心配事の相談や情報提供を行い不安の改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動観察を行う事で、何が必要で何を求めているのかを見極め、常に変化する中、職員間で情報を共有し本人に寄り添いながら、本人の思い等の把握を行っている。	職員は普段の生活の中で入居者の気持ちをゆっくり聞き取るようにしており、自ら思いを口にされる方もおられる。困難な場合には言わんとされることに思いを馳せながら家族の面会時に確認したり、夜勤専従者の気づきなどを反映するなど、本人本位となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を含めた本人の全体像を確認、愛用の家具や物、写真等を持ち込んでもらい会話を多く持ち信頼関係が築けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック(バイタル測定)やケース記録を確認し、職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に何がしたいのか確認し、家族にはどうして欲しいのか確認しながら、共にケアプランを考えて作れるように声かけを行っている。定期会議ではほぼ全職員参加しモニタリングを行い検討している。ケア統一の為に送りノート活用し周知している。	本人・家族の意向を把握してプランを立案し、担当者会議には管理者をはじめケアマネジャーや看護師、介護職員、調理担当者など入居者に関わる多職種の職員が参加し、専門的な観点から入居者に必要な支援を提案している。車いすが移動手段となっても様子を見て手引きで歩いてもらったり、人感センサーを使えばなしにすることなく、筋力の戻り具合をみて動作に不安感が無ければ撤去するなど、全員が評価に関わり必要な内容を掲げるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の出来事や観察した事、職員が感じた事、その時の対応などを記録に残し、色々な角度から気づきを話し合って反映を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康状態に応じて、関連施設の紹介や母体施設への転居も話し合いながら、本人に一番良い環境は何か考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや近隣との連携を大切に、地域の一員となれるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や連携病院など入居者様やご家族に説明を行い、必要時は他病院への受診も検討しながら適切な医療体制が出来るよう支援している。	入居時に隣接する協力医療機関(クリニック)の存在を伝えている。現在本人・家族の同意のもと全員が協力医をかかりつけ医とし、2週間に1回の受診支援と状態に応じて訪問診療が行われている。主治医とは毎日電話かメールで状態報告を午前中に行い、必要な指示を受けている。専門医について、精神科はオンライン受診で、他科は基本的に家族対応としているが、必要に応じて看護師が同行している。歯科は全員が月2回の訪問診療と必要時に相談や外来受診に出ている。入居者の中には口腔ケアの大切さを認識し、自ら歯間ブラシを丁寧に使用される方もおられる。	隣接する医療機関との連携は家族や職員にとっても安心につながっている。家族から異常時のみの報告に限らず、受診後の連絡についても要望があり、採血や予防接種なども連絡を入れている。今後も医療機関と関係を築きながら、適切な支援を継続されることが期待される。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師、連携医の看護師が連携し情報共有しながら、速やかな対応が出来るように話し合っている。夜間帯、看護師不在時は母体施設看護師オンコール体制を図り常に相談出来る体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院や家族に頻りに連絡を取りながら、入居者様に一番いい方法を何度も話し合っている。他施設への紹介や帰設時の対応も話し合っている。連携医へも随時報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の説明を常に行い、重度化した場合はかかりつけ医と相談判断後、ホーム内で行える看取り体制は可能としている。母体の施設とも連携図りながら、出来るだけご家族、ご本人の意思に添える様に話し合いを行っている。	入居時に看取り支援や特養施設について説明を行い、その時点での意向を確認している。入居後も体調の変化時などその都度要望を聞き取り、相談にも応じている。家族は安らかな最終と医師の判断に任せたいという意見も出されている。この3月にホームでの最終を切に希望された家族の意向を受け100歳を前にされた方の看取り支援が行われている。感染症に十分配慮し、家族の毎日の面会や好物の果物を口にされながら最期の時を迎えられている。	隣接する医療機関医師や看護師との連携もあり家族の意向に沿った看取り支援が行われている。支援後は振り返りと職員のメンタル面のサポートは法人関係者が主に対応している。今後も日頃の関わりを大切にケアの継続に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや急変時の対応等の勉強会を繰り返し行っている。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、防火設備点検を定期的に行っている。BCPなども母体施設、町内会議で話し合い更新している。今年度、法人全体で各拠点一斉避難訓練実施(時間未定開始)年2回消防署立ち合い避難訓練、あいな保育園よしむた総合診療所、地域住民の方参加	5月の訓練では隣接する保育園と合同で、消防署の参加による総合訓練を実施し、運営推進会議メンバーに通報確認がされている。11月には保育園や隣接クリニックの協力により避難訓練が行われている。次回からは回覧板で近隣地域に訓練の呼びかけを行うことが決定している。日々の安全チェックは防災委員が中心に行っている。災害備蓄はリストをもとに災害と感染対策用が確保されている。食備蓄を持参された家族もあり、活用されている。BCPIについては法人施設や町内会議で話し合い更新もされている。	訓練の際は毎回近隣者に声掛けを行っており、防災業者の参加協力も確認された。今後は回覧板で近隣者に参加協力を発信する事としており、関係強化に繋がるものと思われる。取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや、会話の内容が適切か、職員間で気になる事があれば話し合っている。研修などに参加し自己の振り返りなども行っている。	声掛けや支援方法など尊厳やプライバシーに配慮しているか研修会で振り返り、気になる事はその都度話し合うようにしている。呼称は苗字を基本としているが、同性者への服薬支援で問題が生じともあり下の名前で対応も行っている。身だしなみの支援として衣服の選択は本人の意向を尊重し、訪問カットによる散髪や、毛染めなどの希望があれば家族へ伝えている。爪のカットや耳のチェックは入浴後に実施している。広報誌など個人情報については、家族への説明と了承を得ており、職員の守秘義務は、入職時や研修会の中で周知徹底が図られている。	爪や耳のチェックなどへの取組状況も家族へ伝える事で、安心や整容への要望など引き出しにつながると思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと、入居者様のペースに合わせて会話し介護者中心の会話にならないように配慮している。情報は共有し希望に少しでも添えるように話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理に促さず、いくつかの選択肢を提案し、本人が選んで参加できるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えはご自身で選べる利用者は選んでもらい、一緒に用意している。日々の髪型や散髪・髪染めの希望を家族に伝える等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染面、認知面などで料理作り片付け等は出来ていないが毎月給食委員会で嗜好調査を話合っている。誕生日には本人のリクエストメニューを取り入れ職員手作りのケーキを提供している。	法人の管理栄養士が作成した献立をもとにホーム職員が調理している。職員の中には献立を見て事前に自宅で一度調理して、ホーム調理に臨むこともあるようである。給食委員会で検食者1名の意見や感想なども活かし、味付けや個々に応じた食形態、少しやわらかめの調理などホーム独自で工夫している。誕生日には、本人のリクエストメニューと職員手作りのケーキを準備しており大変喜ばれている。おやつは週3回ホームでの準備と、家族が好物などを持参されている。	献立によってはどのような料理か？調理方法は？と普段馴染みのない献立名もあるようである。今後は栄養士に確認し記録に残したり、職員間で共有するなど職員の負担軽減に繋がるような取組も必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が考えた献立を嗜好や状態に合わせて味付け、盛り付け形態を個別に合わせて提供している。食事量、水分量のチェックを行い状態把握に努めている。摂取量低下みられる場合はかかりつけ医へ報告し必要時点滴施行し栄養確保へ繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを施行している。月2回訪問歯科の診察が受け口腔内清掃、治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を作成し、排尿パターンを把握し、誘導や付き添いを行っている。間隔が長い入居者様には声かけを行っている。	殆どの方がリハビリパンツを使用されているが、入居後定時誘導などにより、布パンツに変更された方もあり、家族からも感謝の言葉を受けている。便座トイレと男性用立位式（現在使用者はおられない）、ポータブルトイレは清潔に管理し、個々に応じて使用されている。夜間帯にシーツの濡れなどで不快感を伝えられた場合は交換を行い、安心して入眠してもらえるようにしている。排泄用品はホームでの準備や面会を兼ねて家族の持参など意向を確認し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認表を作成し、排便の確認、便の性状を確認している。水分摂取の促し運動や腹部マッサージなど、個別に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数3回行っている。入る順番を確認しながら支援している。季節によって菖蒲湯・ゆず湯など楽しんでもらっている。	温湯やぬるめなど好みの湯温を確認し、週3回必ずマンツーマンの入浴を支援している。その日の気分でシャワー浴を要望される方もおられるが、毎回湯舟にゆっくり浸かって入浴を楽しまれている。「寒いので今日は入らない！」と言われる時には、翌日や時間をずらすなど柔軟に応じている。季節湯として菖蒲は地域の方から、柚子は職員の持参で毎年継続されている。	ミニ庭園を眺めながら露天風呂気分を味わえる浴室環境である。今後も季節湯をはじめ職員のアイデアや工夫により、楽しみとなる入浴支援の継続に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や本人のペースに合わせて、臥床の時間を作っている。夜間は室温を調整し衣類や布団の調整を行いながら、気持ちよく寝られるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は全職員に知らせ、注意点は看護師が都度説明を行っている。予約時も誤薬がないようにダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干したたみ、テーブル拭きなど出来る方に役割を持ってもらっている。散歩・カラオケ・塗り絵・脳トレなど声かけし参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じて中庭の散歩やご近所の散歩、外食に出かけている。ドライブ、地域のお祭りなどへも足を運び地域交流も少しずつ活動を増やしている。ご家族へも事前案内をし希望される方へは参加を呼びかけている。	中庭の散歩は身近な外出の機会として継続し、デッキも外気浴の場所となっている。また地域資源を活用し、飲食店の利用や祭りへ足を運ぶなど交流の機会が増している。家族からの要望を受け、外出の事前報告を行い一緒に楽しんでもらったり、法事や受診後の自宅への立ち寄りなど、家族の協力による支援も確認された。外出を含め活動の様子は広報紙や談話スペースでも紹介されている。	広報誌などで取組を紹介される際は、年度や日付なども記しておくことで、より家族にもわかりやすくなると思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何か欲しい物があれば職員一緒に近くのコンビニへ買い物に行き支払いをしてもらっている。外出困難な方は職員代行し買い物をしたり、ご家族へ依頼している。時折訪問パン屋さんへも来て頂き自身で選び買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族に電話をしたり、ハガキを書いたりできるように声かけ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明器具は柔らかい明るさの物を配慮している。居間には季節花を飾り、季節を感じて頂いている。	ホーム内は照明や室温など入居者が過ごしやすくなるよう配慮しており、季節の草花を飾ったり、壁面や入居者が喜ばれるようなカレンダーの掲示がされている。また、玄関内には夜勤専任者も含め職員紹介がされており、家族の安心につながっている。安全に改装されたデッキは、お茶や休憩の時間に活用されている。団上がりの畳のスペースに置かれ仏壇には職員が毎朝ご仏飯を供えており、以前は仏壇前に座り手を合わせておられたようである。コロナ5類移行後も感染症対策を施し、面会は人数に応じて居室や玄関近くの談話スペースを利用している。	浴室や脱衣所を含め、共用空間は整頓や掃除の徹底を全職員で取り組んでいる。継続した取組が期待され、家族や来訪者にもあらためて紹介されることで安心につながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が同じテーブルになるよう配慮している。完全個室の為、好きな時に居室でのゆっくり過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込み、家族写真や飾りなど本人の希望に添った居室作りを行っている。	入居の際使い慣れた品の持ち込みについて説明を行っている。居室作りは家族と本人が中心に行ってもらっており、職員は質問を受けた時にアドバイスを含め答えており、家族は他の居室も参考にされている。テレビや写真集、ドリルなどこれまでの趣味や生活歴に応じた品の持ち込みも見られた。また、家族の写真を飾ったり仏壇が置かれた部屋では、毎朝「お父さんにあげなん！」と自身が飲む前にお茶を供える事を日課とされている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはそれぞれ花の名前があり、ドアにはその花をモチーフにした彫刻を使用している。個人のADLに合わせて、居室の環境作りを行っている。筋力低下予防の為、個別リハを実施している。		